

SS-Lecture 菅平高原実験所実習

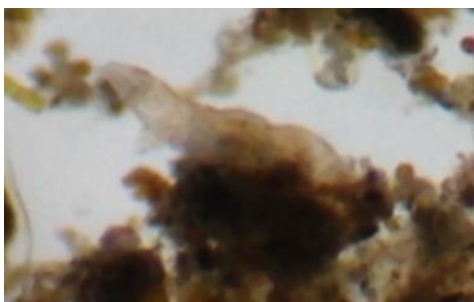
平成 31 年 2 月 9 日(土)～11 日(月) 筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所

今年で4年目となる「冬のフィールド研修」は好奇心をかき立てるものでした。1日目、まずは菅平の自然について学ぶ講義から開始。敷地内に植生の遷移の過程を確認できるエリアが作られていることに驚きを感じました。また、翌日の「アニマルトラッキング」に備えて、雪上に残された形跡(フンや足跡)から動物の行動を推測することを学びました。講義の後、雪に親しむ時間があり、地元の前橋ではなかなか経験できない雪の量に気持ちも高ぶりました。夜は双眼実体顕微鏡を用いてクマムシの観察。なかなか見つけられず苦労しました。さらに、走査型電子顕微鏡でショウジョウバエの観察を行いました。見えないものが見える顕微鏡の凄さを体験できました。

2日目は双眼鏡を用いたバードウォッチングからスタート。色のきれいな鳥や、餌を遠くから見ていてなかなか近づこうとしない鳥など、普段あまり意識していなかった特徴を意識して観察することで新しい発見ができました。更に、スノーシューを履いて雪原を歩く実習では、ニホンカモシカの足跡を発見。また、新しい様子であり、近くまで来ていた動物が私たちに気付いて離れていったように見えました。午後は氷瀑を目指しながらアニマルトラッキング。動物の足跡などを観察しながら目的の滝に到着。神秘的な絶景！思わず感動で声が出てしまう程でした。敷地内であり、非公開とのことでしたが貴重な経験ができました。行程の途中でヤドリギの実を発見、試食。とっても甘く、不思議なおいさでした。夜は1日目のリベンジと、クマムシの観察に再挑戦。1日目より道具の使い方に慣れたのか、すぐに見つかる生徒も多く成長が感じられました。夜は気温が下がるため、シャボン玉を凍らせるとどうなるか試す生徒もおり寒さを利用した実験の難しさ、不思議さを体感できました。

最終日3日目、まだ薄暗い中、早朝よりシャボン玉を凍らせて実験した生徒、近くを散策し、動物の足跡やリスを発見する生徒もおり、生徒の興味は様々であるものの、一人ひとりにとって充実した実習になっていました。

最後に、町田龍一郎先生から「進化の仕組み」について講演をいただきました。様々な変化をしていく中で残ったものが進化となっていくことを知り、進化の奇跡を感じました。非常に充実した実習を体験させていただいたこと、町田先生、大学院生の方々に感謝いたします。



クマムシ



餌に集まる鳥



氷瀑の前で



空気中で凍り始めたシャボン玉